

世界史

アップデート

● 濟州島四・三事件

- 韓国・濟州島の一般島民を含む約2万5000～3万人が犠牲になったとされる「濟州島四・三事件」は、長く「共産暴動」としてタブー視されてきたが、近年は真相究明と名誉回復が進む。
- 2000年に「四・三特別法」が施行され、事件に関する自由な発言を認め、被害者や遺族らへの不利益な処遇を禁止した。事件当時の李

ここに注目!

承晩大統領ら国家権力の責任を指摘する調査報告書が03年に作成され、盧武鉉大統領（当時）が公式に謝罪した。

● 関係者が高齢化して記憶の継承が課題になる中、『別れを告げない』で事件を扱った韓国の作家・韓江さんが昨年ノーベル文学賞を受け、改めて事件が注目されると期待されている。



● 母さんが小さいとき、軍と警察が村の人を皆殺しにしたんだけど、そのとき国民学校の最上級生だった母さんと十七歳だった伯母

● 韓国で長年「共産暴動」としてタブー視された事件は近年、真相究明が進む。

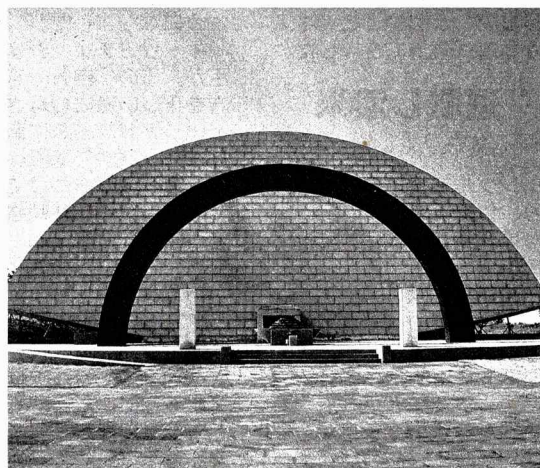
究明と記憶の継承

● 朝鮮半島が米国とソ連による南北分割占領下にあった1948年4月3日、米国が南部のみの単独総選挙を進める中、南北の分断に反対する現在の韓国・濟州島の一部島民が蜂起した。同年夏に韓国が成立し、李承晩が初代大統領に就くと、武力鎮圧が激化。54年まで続いた「濟州島四・三事件」では、多くの一般島民を含む約2万5000～3万人が犠牲になったとされる。

● さんだけが、海の近くの親戚の家にお使いに行つて泊まっていたので助かった。昨年、ノーベル文学賞を受けた韓国の作家・韓江さんの長編小説『別れを告げない』は、四・三事件で被害に遭った島民の記憶を継承する鎮魂の物語だ。主人公の作家キョンハは、友人インソンから彼女の母を苦しめた事件の歴史を聞く。

● 実際の事件では、李政権下で軍が48年10月、全島の海岸線から5キロ以上離れた場所に入りする人々を銃殺する布告を発し、11月には李大統領が戒厳令を敷いて村々を焼き払う焦土化作戦を実行。約1300の村が焼かれた。50～53年の朝鮮戦争下では、共産主義者らの動向を警戒し、一般の濟州島民を次々に虐殺した。一部島民が蜂起の拠点とした漢拏山の禁足が54年9月に解除されるまでに多数の犠牲者を出したが、韓国では87年の民主化以前、事件は「共産暴動」とみなされ、蜂起に無関係の多くの一般島民の遺族が口を閉ざすことを強いられた。

● 遺族らは就職が難しくなるなどの不利益を被ったという。



韓国・濟州島の四・三平和公園—文名誉教授提供

● 立命館大の文京殊名誉教授は「今こそソリゾット地になった濟州島だが、韓国では長く『アカの島』として扱われ、事件は歴史の闇に葬られてきたと語る。真相究明が本格的に進み始めたのは、20世紀末以降だ。韓国では、2000年に事件の真相究明と犠牲者の名誉回復を図る「四・三特別法」を施行。事件に関する自由な発言を認め、被害者や遺族らへの不利益な処遇を禁止した。

● 03年に、事件当時の李大統領ら国家権力の責任を指摘する調査報告書が作成されると、盧武鉉大統領（当時）が濟州島で公式に謝罪して、06年には慰霊祭に出席。「四・三平和公園」が08年、濟州島内に完成し、事件発生日である4月3日は14年、犠牲者を追悼する国家の記念日に指定された。犠牲者数は今なお確定していない。21年には被害者や遺族に対する賠償・補償

● 四・三事件は、被害者や遺族の高齢化が進む中、記憶の継承が課題となっている。そうした中で、韓江さんのノーベル賞受賞は、事件を改めて捉え直す機会になった。文名誉教授は「犠牲の実態を掘り起こして生者と死者の行き交いを描いた小説によって、四・三事件が国際社会で広く認知された」と話す。また、伊地知教授は「これからは、当時を直接知らない人も四・三に思いを寄せられるような記憶の継承の場づくりが求められる」と話している。

● 可決されたが、これまで犠牲者として認定された人数は後遺障害を負った生存者を含めても1万5000人に満たないという。30年間、濟州島で証言を集める大阪公立大の伊地知紀子教授は「村ごと焼き払われて一家で亡くなった犠牲者や、現在も四・三の被害者・遺族と明かすことを避ける人もいまだ少なくない」とみる。

● 四・三事件は、被害者や遺族の高齢化が進む中、記憶の継承が課題となっている。そうした中で、韓江さんのノーベル賞受賞は、事件を改めて捉え直す機会になった。文名誉教授は「犠牲の実態を掘り起こして生者と死者の行き交いを描いた小説によって、四・三事件が国際社会で広く認知された」と話す。また、伊地知教授は「これからは、当時を直接知らない人も四・三に思いを寄せられるような記憶の継承の場づくりが求められる」と話している。

● 可決されたが、これまで犠牲者として認定された人数は後遺障害を負った生存者を含めても1万5000人に満たないという。30年間、濟州島で証言を集める大阪公立大の伊地知紀子教授は「村ごと焼き払われて一家で亡くなった犠牲者や、現在も四・三の被害者・遺族と明かすことを避ける人もいまだ少なくない」とみる。

(真崎隆文)

参考文献 文京殊『濟州島四・三事件』（岩波現代文庫）、梁聖宗・金良淑・伊地知紀子編著『濟州島を知るための55章』（明石書店）、『済民日報』四・三取材班『濟州島四・三事件 第一～六巻』（新幹社）、ハン・カン『別れを告げない』（斎藤真理子訳、白水社）